

# 大学院口腔科学教育部 口腔保健学専攻(博士後期課程)の設置

2015(平成27)年4月

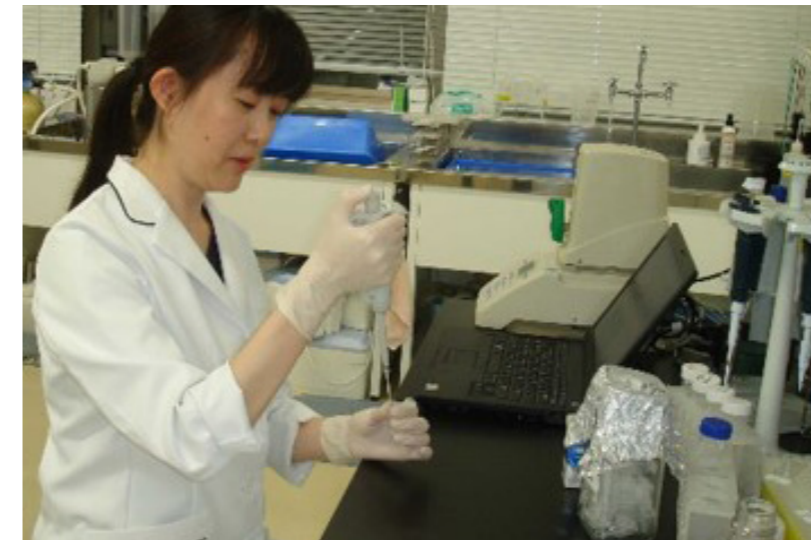
## 2015年 口腔科学教育部口腔保健学専攻(博士後期課程)

超高齢社会を生き抜くために、栄養学・社会福祉学領域を包含した口腔保健学を基盤とし、予防・ケア・生活科学を融合した長寿福祉口腔保健学の学際領域を推進する人材養成とこれに関わる日本唯一の教育・研究機関の設置



**【基本理念】**

持続可能な健康長寿社会の実現を目指し、全てのライフステージにおいて口腔から全身の健康を支援し、福祉の充実から高齢化の進む地域社会や国際社会における生活の質の向上に寄与する



超高齢社会を迎え、国民に良質な保健・医療・福祉サービスを提供できるより高度な人材の育成が求められている。そのためには歯科衛生士養成機関の教育者自身が高度専門化する必要があり、これまでの口腔保健学領域に加えて栄養学や社会福祉学領域についても高い実務能力が要求され、超高齢社会に不可欠な老年学(ジェロントロジー)の学際領域を推進する人材の養成機関が必要である。この社会的要望に応えるべく徳島大学大学院口腔科学教育部は、2015(平成27)年4月に口腔保健学専攻 博士後期課程を設置した。具体的には、以下のような人材養成を目的としている。

①栄養学、社会福祉学領域を包含した口腔保健学を基盤としながら、予防・ケア・生活科学を融合した学際分野を「長寿福祉口腔保健学」とし、この学際領域の教育・研究を遂行できる教育者及び研究者の養成

②健康長寿の確立及び福祉の充実により、地域社会や国際社会において指導的役割から歯科口腔保健を推進できる高度専門職業人の養成

とくに本課程の特色として、これまでにない新しい科目である「口腔保健栄養福祉学特論」を必修科目に導入した。この科目は、長寿福祉口腔保健学を学ぶ教育者・研究者に必要な基礎知識である口腔保健学、口腔機能を踏まえた栄養学、社会福祉学に関する制度の基本とその現状などを修得するものである。さらに専門展開科目として、口腔保健学・栄養学を学ぶ「口腔保健教育学特別演習」、「口腔保健衛生学特別演習」、「口腔保健支援学特別演習」、「口腔機能管理学特別演習」と社会福祉学を学ぶ「口腔保健福祉学特別演習」、「地域医療福祉学特別演習」を修得することで、最終的に「長寿福祉口腔保健学」を展開できる人材の育成が可能となる。本課程に所属する(または本課程を修了した)者は、研究課題に関連した基礎研究や地域現場での活動、さらには国内だけでなく国際学会等での発表を積極的に行っている。また、教員として歯科衛生士学生教育にも関与し、持続可能な健康長寿社会に貢献できる人材育成にも携わっている。

